

# 線形代数学第 1 - 期末試験解答例 -

情報システム工学科 1 年生

平成 15 年度前期 - 2003.7.23 -

- 1(a) 「正しくない」．反例を以下に示す． $b$  は行空間  $(1, -1)$  にあるが，この方程式は解を持たない．解を持つのは  $b$  が  $A$  の列空間にあるときである．

$$\begin{bmatrix} 1 & -1 \\ 1 & -1 \end{bmatrix} \begin{bmatrix} u \\ v \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} 1 \\ -1 \end{bmatrix} \quad (1)$$

- (b) 「正しい」．解を持つのは  $b$  が  $A$  の列空間にあるときである．列空間は左零空間に直交するから， $b$  は列空間にある．  
(c) 「正しくない」．2 次元ベクトルで線形独立なものは高々 2 個である．反例を以下に示す．

$$v_1 = \begin{bmatrix} 1 \\ 0 \end{bmatrix} \quad v_2 = \begin{bmatrix} 0 \\ 1 \end{bmatrix} \quad v_3 = \begin{bmatrix} 1 \\ 2 \end{bmatrix} \quad (2)$$

これらのベクトルでは次の縦続関係が成り立つ．

$$v_1 + 2v_2 - v_3 = 0 \quad (3)$$

- (d) 「正しくない」．線形独立な  $n$  個のベクトルが張る空間は「高々」ではなく「必ず」 $n$  次元空間である．反例を以下に示す．

$$v_1 = \begin{bmatrix} 1 \\ 0 \\ 1 \end{bmatrix} \quad v_2 = \begin{bmatrix} 0 \\ 1 \\ 1 \end{bmatrix} \quad (4)$$

$v_1, v_2$  は線形独立であり，これらが張る空間は必ず 2 次元である．

- (e) 「正しい」  
(f) 「正しくない」．反例は零ベクトルである．零ベクトルと任意のベクトルの内積は零であるが，直交していない．  
(g) 「正しい」  
(h) 「正しくない」．反例を次に示す．

$$v = \begin{bmatrix} 1 \\ 0 \\ 1 \end{bmatrix} \quad w = \begin{bmatrix} 1 \\ 1 \\ -1 \end{bmatrix} \quad (5)$$

$v$  の成分を  $w$  を含む直交系に分解する． $w$  に直交する別のベクトルを  $u$  とする．

$$\mathbf{u} = \begin{bmatrix} 1 \\ -1 \\ 0 \end{bmatrix} \quad (6)$$

$$\mathbf{v} = c_1 \mathbf{w} + c_2 \mathbf{u} \quad (7)$$

を満たす， $c_1, c_2$  を求める．

$$1 = c_1 + c_2$$

$$0 = c_1 - c_2$$

$$1 = -c_1$$

上式を満たす  $c_1, c_2$  は存在しない．

- (i) 「正しくない」．行空間と零空間は直交するが，問題のベクトルの内積は 1 であり，直交していない．

2. まず， $A\mathbf{x} = \mathbf{0}$  の一般解を求める． $A$  をガウスの前進消去により  $U$  に変形する．

$$\mathbf{A} = \begin{bmatrix} 1 & 0 & 1 \\ -1 & 1 & 0 \\ 0 & 1 & 1 \end{bmatrix} \Rightarrow \begin{bmatrix} 1 & 0 & 1 \\ 0 & 1 & 1 \\ 0 & 1 & 1 \end{bmatrix} \Rightarrow \begin{bmatrix} 1 & 0 & 1 \\ 0 & 1 & 1 \\ 0 & 0 & 0 \end{bmatrix} = \mathbf{U} \quad (8)$$

$\mathbf{x} = (u, v, w)$  とすると， $u, v$  が基底変数で， $w$  が自由変数である．

$$u + w = 0$$

$$v + w = 0$$

これより，

$$\mathbf{x} = w \begin{bmatrix} -1 \\ -1 \\ 1 \end{bmatrix} \quad (9)$$

次に  $Ax = b$  の一般解を求める．一般解は自由変数  $w = 0$  として求まる．

$$\begin{aligned}u &= 1 \\ -u + v &= 0\end{aligned}$$

これより，

$$\mathbf{x} = \begin{bmatrix} 1 \\ 1 \\ 0 \end{bmatrix} \quad (10)$$

以上をまとめると，次のようになる．

$$\mathbf{x} = w \begin{bmatrix} -1 \\ -1 \\ 1 \end{bmatrix} + \begin{bmatrix} 1 \\ 1 \\ 0 \end{bmatrix} \quad (11)$$

- 3(a) ベクトル  $v_1, v_2, v_3$  を行ベクトルとする行列  $A$  を考える．これらのベクトルで張られる空間  $V$  は  $A$  の行空間である． $A$  をガウスの前進消去により  $U$  に変形して基底と次元を求める．

$$\begin{aligned}A &= \begin{bmatrix} 1 & -1 & 0 & 1 \\ 0 & 1 & 1 & -1 \\ 1 & 0 & 1 & 0 \end{bmatrix} \Rightarrow \begin{bmatrix} 1 & -1 & 0 & 1 \\ 0 & 1 & 1 & -1 \\ 0 & 1 & 1 & -1 \end{bmatrix} \\ &\Rightarrow \begin{bmatrix} 1 & -1 & 0 & 1 \\ 0 & 1 & 1 & -1 \\ 0 & 0 & 0 & 0 \end{bmatrix} = U\end{aligned}$$

上式より，階数が 2 であるから，2 次元空間である．また，基底の一つの組は  $(1, -1, 0, 1), (0, 1, 1, -1)$  である．

- (b) 空間  $V$  の直交補空間  $W$  は  $A$  の零空間である． $Ax = \mathbf{0}, \mathbf{x} = (x_1, x_2, x_3, x_4)$  とすると， $x_1, x_2$  は基底変数であり， $x_3, x_4$  が自由変数である．

$$\begin{aligned}x_1 - x_2 + x_4 &= 0 \\ x_2 + x_3 - x_4 &= 0\end{aligned}$$

これより，

$$\begin{aligned}x_2 &= -x_3 + x_4 \\ x_1 &= -x_3\end{aligned}$$

零空間は次のように求まる .

$$\boldsymbol{x} = x_3 \begin{bmatrix} -1 \\ -1 \\ 1 \\ 0 \end{bmatrix} + x_4 \begin{bmatrix} 0 \\ 1 \\ 0 \\ 1 \end{bmatrix} \quad (13)$$

従って , 空間  $W$  は 2 次元であり , 基底は上式で与えられる .

- 4(a) 条件  $x_1 = x_2$  より , 部分空間の次元は 2 次元となる . すなわち , 基底は 2 つのベクトルからなる .  $x_3$  は 2 つのベクトルが線形独立となるように決める . 一例を示す .

$$\begin{bmatrix} 1 \\ 1 \\ 0 \end{bmatrix} \quad \begin{bmatrix} -1 \\ -1 \\ 1 \end{bmatrix} \quad (14)$$

- (b) 行空間は零空間に直交するから , 行空間を張るベクトル  $\boldsymbol{v} = (v_1, v_2, v_3)$  は次式を満たす .

$$\begin{bmatrix} 1 & 0 & -1 \end{bmatrix} \boldsymbol{v} = v_1 - v_3 = 0 \quad (15)$$

$v_1$  が基底変数で ,  $v_2$  と  $v_3$  が自由変数である . この方程式の解は次のようになる .

$$\boldsymbol{v} = v_2 \begin{bmatrix} 0 \\ 1 \\ 0 \end{bmatrix} + v_3 \begin{bmatrix} 1 \\ 0 \\ 1 \end{bmatrix} \quad (16)$$

従って , 求める行列は次のようになる .

$$\begin{bmatrix} 0 & 1 & 0 \\ 1 & 0 & 1 \end{bmatrix} \quad (17)$$

5. (ア)不定解 (イ)列 (ウ)不能解 (エ) $n$  (オ)列 (カ)不定解 (キ)不能解

6(a) 行空間

行列  $A$  をガウスの前進消去により, 行列  $U$  に変換する.

$$\begin{aligned} A &= \begin{bmatrix} 1 & 0 & -1 & 1 \\ 0 & 1 & -1 & 2 \\ -1 & 1 & 0 & 1 \end{bmatrix} \Rightarrow \begin{bmatrix} 1 & 0 & -1 & 1 \\ 0 & 1 & -1 & 2 \\ 0 & 1 & -1 & 2 \end{bmatrix} \\ &\Rightarrow \begin{bmatrix} 1 & 0 & -1 & 1 \\ 0 & 1 & -1 & 2 \\ 0 & 0 & 0 & 0 \end{bmatrix} = U \end{aligned} \quad (18)$$

階数は  $r = 2$  であるから, 行空間は 2 次元 ( $= r = 2$ ) である. 基底は上式から  $(1, 0, -1, 1)$ ,  $(0, 1, -1, 2)$  となる.

零空間

上で求めた行列  $U$  より,  $Ax = 0, x = (x_1, x_2, x_3, x_4)$  において,  $x_1, x_2$  が基底変数,  $x_3, x_4$  が自由変数である.

$$x_1 - x_3 + x_4 = 0 \quad (19)$$

$$x_2 - x_3 + 2x_4 = 0 \quad (20)$$

より,

$$x = x_3 \begin{bmatrix} 1 \\ 1 \\ 1 \\ 0 \end{bmatrix} + x_4 \begin{bmatrix} -1 \\ -2 \\ 0 \\ 1 \end{bmatrix} \quad (21)$$

これより, 零空間は 2 次元 ( $= n - r = 4 - 2$ ) であり, 基底は  $(1, 1, 1, 0)$ ,  $(-1, -2, 0, 1)$  である.

列空間

行列  $U$  より,  $A$  の第 1 列と第 2 列が線形独立となる. これより, 列空間は 2 次元 ( $= r = 2$ ) で, 基底は  $(1, 0, -1)$ ,  $(0, 1, 1)$  である.

左零空間

$A^T$  をガウスの前進消去により，行列  $U$  に変換する．

$$A = \begin{bmatrix} 1 & 0 & -1 \\ 0 & 1 & 1 \\ -1 & -1 & 0 \\ 1 & 2 & 1 \end{bmatrix} \Rightarrow \begin{bmatrix} 1 & 0 & -1 \\ 0 & 1 & 1 \\ 0 & -1 & -1 \\ 0 & 2 & 2 \end{bmatrix} \Rightarrow \begin{bmatrix} 1 & 0 & -1 \\ 0 & 1 & 1 \\ 0 & 0 & 0 \\ 0 & 0 & 0 \end{bmatrix} = U \quad (22)$$

上で求めた行列  $U$  より， $Ax = 0$ ,  $x = (x_1, x_2, x_3)$  において， $x_1, x_2$  が基底変数， $x_3$  が自由変数である．

$$x_1 - x_3 = 0 \quad (23)$$

$$x_2 + x_3 = 0 \quad (24)$$

より，

$$x = x_3 \begin{bmatrix} 1 \\ -1 \\ 1 \end{bmatrix} \quad (25)$$

これより，左零空間は 1 次元 ( $= m - r = 3 - 2$ ) であり，基底は  $(1, -1, 1)$  である．